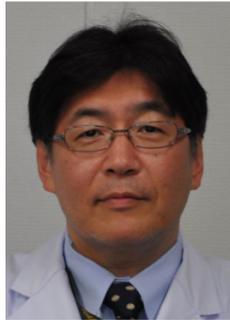


新年度御挨拶

北海道大学整形外科 教授 岩崎 倫政

2019年度開始にあたりご挨拶申し上げます。また、常日頃より教室の運営に関し多大なご高配を賜り、この場をお借りして改めて御礼申し上げます。北大整形外科同門会（以下、同門会）の諸先生方の多大なご支援、ご協力により、教室運営の基盤も固まり教室の業績も順調に伸びてきています。



教室からの報告事項として、今年度は**13名**の先生が北大整形外科に入局してくれました。4年連続で2桁の入局者数に達しております。入局者（大学によっては同門会入会者）の定義は各大学によって異なります。したがって、教室への人の集まり具合を他と比較評価するには、昨年度開始された新専門医制度研修プログラム参加者数を見るのが最適です。これは卒後3年目以降（3年目が主）に整形外科研修を開始する医師が対象となり、各大学や基幹病院のプログラム参加者数がweb上で公表されます。入局者の中には、専門医取得後等の先生も含まれるので、必ずしもプログラム参加者数とは一致しませんが、おおよそ平行になります。北大整形外科プログラム参加者数は、昨年度が**12名**、今年度は**11名**でした。2年連続で2桁の参加者数があったプログラムは大都市圏を中心に**12**のみですので、北大は全国的にも人が集まる教室であると言えます。以前から繰り返し述べてきたように、教室員を増やすことが教室発展の生命線であります。一方で、勢いや魅力のない組織には人は集まりません。まだまだ、北大整形外科は若い整形外科医を受け入れ、優れた整形外科医に育て上げるcapacityは十分にあります。北海道とい

う地域でより多くの研修医を集めるには、研修プログラムの充実を図ることが大前提です。同門の諸先生方は、この点を理解され各施設において研修体制を整備し研修医に対して整形外科診療の魅力を伝えると同時に積極的な勧誘を行っていただいております。また同門会からは、教室の勧誘活動に対し多大なご支援をいただいております。これらに対して、心より御礼申し上げます。なお、勧誘担当は門間太輔先生から遠藤務先生（研修医担当）と清水智弘先生（学生担当）の2名体制に変更となりました。研修医に関する情報等がありましたら、この2名に連絡をお願いします。今年度も、ご協力、ご支援、何卒よろしくお願いいたします。

私事ですが、本年4月**18,19**日に第**62**回日本手外科学会学術集会を開催させていただきました（4月**23**日に本原稿を書いております）。上肢班所属の同門の先生方を中心に多大なご支援、ご協力をいただき、無事、会長の任を果たすことが出来ました。同門会の皆様には、この場をお借りして改めて御礼申し上げます。さて、本学術集会を開催するにあたり、私なりに学術集会の果たす役割、意義を考えてみました。第一の役割は、普段会えない仲間と会い親交を深めること。第二に、各自が研究成果を発表し、直接議論しあうことで得られる最新の研究成果を持ち帰り、その後の診療や研究に繋げていくことです。そして、第三が研究を推進するためのマイルストーンとしての役割です。多くの先生方は、学術集会での発表を一つの目安にして研究（特に臨床研究）を開始し、演題抄録締め切り日に間に合うように研究をスピードアップされていると思います。このような点から、学術集会は研究推進のマイルストーンの

役割を果たすと考えます。私は、この第三の役割こそが学術集会開催の最も重要な意義であると考えています。そして、皆様も理解されているように研究の最終ゴールはその成果を論文化（もちろん英語）してpeer reviewed journalに投稿し、アクセプトさせることです。したがって、私が今回主催した学術集会が本当にその役割を果たせたか否かという判断は2から3年後に発表演題の何パーセントが英語論文化されたかということになります。これに関連し、教室の状況をみてみますと、国内外の学会、特に海外の主要学会でひじょうに多くの演題発表があります。このことは、とても喜ばしいことです。一方で、教室員の関係した2018年の英語論文数は、手元にあるものを数えると64編です。英語論文数はここ数年、増加傾向にあります。論文化率で考えるとまだまだ上昇させる余地はあります。“研究の完結は論文をアクセプトさせることである”という原点に立ち返り、これまで以上に研究成果を論文の形にして世界に発信させていく所存であります。

現在、アカデミアや医療をとりまく環境はたいへん厳しくなっております。このような環境下で大学の臨床系教室が発展するためには、“優れた臨床医の育成”、“世界に向けた研究成果の発信”、“先端的医療の開発と臨床応用”、を実践していかななくてはなりません。この実践のためには、教室員のみならず同門会の皆様方のご協力が不可欠です。繰り返し言ってきたように北大整形外科教室が誇れる点は、健全なアカデミズムを持った多くの関連病院と同門会の先生方からのサポートがあることです。同門会の皆様方には、今年度もこれまで同様ご協力、ご支援をしていただきたくお願い申し上げます。

以上を持ちまして同門の皆様方への新年度のご挨拶に代えさせていただきます。

ご挨拶

北海道大学整形外科 同門会長 増田 武志

新年度を迎え会員の皆様にご挨拶申し上げます。

去年は同門会役員の2年に1度の改選の年でした。会則改定後の初めてのことで、再編成された支部ごとに役員が選出されました。その支部の会員数に比例した役員数となっておりますので、札幌東・西支部が多くなっております。また、その新役員会で会長選挙が行われ立候補した私が信任され、総会で承認されました。副会長ならびに監事は引き続き、鈴木孝治・須田浩太先生ならびに菅原誠・柴田理恵子先生にお願いいたしました。各支部内で同門会としての対応が望ましいと思われました場合は、該当支部役員にご相談ください。特に、改訂されました会則には「会員の相互扶助」を謳っておりますので、同門会としてできることがありましたら、教室と相談して積極的に関与していく積りです。また、私ども役員に対し直接ご意見していただくことも歓迎いたします。特に、経験豊かなSeniorの会員の皆様からのご指導をお願いいたします。

教室も多くの新人が加わり、新たなスタートを切っていることでしょう。教室の体制も年々充実、拡大を見せており頼もしい限りです。私ども同門会が岩崎教授の目指していることに少しでも支えることが出来れば嬉しい限りです。2年前からのエルム基金への会員の関心も強く予想を上回る寄付・協賛を得ております。おかげで、今年の日整会総会には研修医の学術集会参加を援助することが出来ます。エルム基金は今後も続けますが、会員の皆様には余裕のある範囲で寄付していただければ幸いです。



今年の6月（あるいは7月）に今年度第1回の同門会役員会を予定しております。上に述べましたように会員の皆様のご意見等ありましたら遠慮なくお寄せください。重要事項の決定は役員会でなされるものですから、急ぎの案件は議題として取り上げます。なお、今年の同門会総会ならびに忘年会は11月30日（土曜日）ですので、是非参加してくださいませようお願いいたします。

新設講座紹介

「運動器先端医学分野開設について」

北海道大学大学院 医学研究院

運動器先端医学分野 特任准教授 角家 健

整形外科の新しい分野の1つとして、この4月から運動器先端医学分野が創設されました。岩崎倫政教授の下、私が特任教員として担当しております本分野について、簡単にご説明させていただきます。我が国は、超高齢化社会を迎え、健康寿命の延伸が、国家から個人に至るまで、喫緊の課題となっています。皆様、ご存知のように、現在、要支援・要介護となる原因の第一位（約25%）が運動器症候群（ロコモティブシンドローム）ですから、運動器を良好に保つことが、健康寿命延伸に直結することは明らかです。今までも、運動器を良好に保つことが、健康を維持する鍵であることは、よく知られていましたが、これからは、より先進的な手法で運動器の状態を把握し、向上させる必要があると考え、運動器機能の解析、制御に関する研究に集中するために、2年前に創設された寄附講座が、先端的運動器機能解析・制御学分野でした。今回は、その研究成果の実用化を、より具体的に目指していくことを目的として、産業創出分野という形として継続することになりました。



具体的には、運動器疾患の診断、再生、病態に関する、基礎および臨床研究を行います。すでに、新規歩行解析方法、神経再生のための細胞治療や創薬、バイオマーカー開発などのプロジェクトが進行しております。これらのプロジェクトは、北斗病院、北海道せき損センター、函館整形外科クリニック、手稲溪仁会病院、松田整形外科記念病院、SSJ札幌整形循環器病院、九州大学システム情報科学研究所、長崎大学医学部、NASA Jet Propulsion Laboratory、University of California, San Diego、北大創薬科学研究教育センター、北大情報科学部、日立ハイテクノロジーズ社、日立中央研究所、日立製作所との共同研究で行われております。これらの研究が遂行できるのは、同門の先生方のご理解とご支援のお陰です。この場をお借りして、深く御礼申し上げます。基礎、臨床に関わらず、私たちの研究アイデアの源泉は日常診療にあります。同門の先生の皆様が日常診療で感じる疑問、要望は、私たちにとりまして金言ですので、いつでも遠慮なく、ご意見を頂けますと非常にありがたいです。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

「転移性骨腫瘍予防・治療学分野開設のご挨拶」

北海道大学大学院 医学研究院

転移性骨腫瘍予防・治療学分野 特任助教 岩田 玲

このたび脊椎ならびに四肢骨の転移性骨腫瘍に対する専門的かつ集約的医療や研究を推進するため転移性骨腫瘍予防・治療学分野を開設し、2018年11月1日より教授 岩崎倫政（兼任）、准教授 高畑雅彦（兼任）、特任助教 岩田玲（専任）の体制で運用を開始しました。この5月から毎週月曜日に転移性骨腫瘍外来を開設致します。がんの主要な転移臓器のひとつである骨は腫瘍が進展すると痛みや麻痺により患



者の生活の質が大きく損なわれます。近年の抗がん剤の進歩により生命予後が改善されていますが、その分生活の質が重要となり、骨転移病変の治療が重要となります。転移性骨腫瘍があっても適切に診断および治療がなされれば生活の質を維持できる場合も少なくありません。日本整形外科学会で提唱されています「がん口コモ」はがんに関連した運動器の障害による移動機能の低下を示していますが、この「がん口コモ」に代表される問題を解決しなければいけません。北海道における転移性骨腫瘍治療をけん引し、より先進的に治療に取り組めるように頑張りたいと思います。同門の先生方にはより良くなるよう御指導、御鞭撻の程を頂けますと幸いです。何卒宜しくお願い致します。

令和元年度 新任教官 紹介



後藤 佳子

病院助教に採用されましたスポーツ医学診療センターの後藤佳子です。北大病院ではこれまで日本ハムファイターズのプロ野球選手への医療協力を行ってきましたが、**2018年**に改めて医療、社会、研究に関する相互の貢献のための協定を組み、この度いただいた立場で引き続き関わらせていただくこととなりました。基礎的な医学的管理を基盤に、社会的な環境を踏まえた疾患への関わりや、新しい知見を大切にしながら、今後のスポーツ診療に役立てて参りたいと思います。また、手術を避けたいスポーツ選手の治療として、**PRP**治療の可能性に着目し、より効果的な治療に向けた研究につながるよう当院での導入に関わっていきたくと思います。非力ですが努力して参りたいと思います。今後とも何卒よろしく宜しくお願い致します。

令和元年度 教室体制

上肢班	教授	岩崎 倫政
	助教	河村 太介 (医局長)
	助教	瓜田 淳
	助教	松井 雄一郎 (病棟医長)
	医員	太田 光俊 (上半期病棟係)
	医員	遠藤 健 (下半期病棟係)
脊柱班	准教授	高畑 雅彦
	特任 准教授	須藤 英毅 (脊椎・脊髄先端医学分野)
	特任助教	岩田 玲 (転移性骨腫瘍予防・治療学分野)
	特任助教	山田 勝久
	医員	遠藤 努
	医員	辻本 武尊 (4月～9月, 病棟係)
	医員	太田 昌弘 (10月～3月, 病棟係)
	医員	
下肢班	講師	小野寺 智洋 (外来医長)
	医員	岩崎 浩司
	医員	松原 新史 (上半期病棟係)
股関節班	講師	高橋 大介
	助教	浅野 毅
	助教	清水 智弘
	医員	高橋 要 (病棟係)
腫瘍班	医員	松岡 正剛 (下半期下肢班病棟係)
スポーツ診療	特任教授	近藤 英司
	助教	後藤 佳子 (スポーツ医学診療センター)
リウマチ・ 骨粗鬆症	助教	清水 智弘
基礎研究	特任 准教授	古川 潤一 (先端的糖鎖臨床生物学分野)
	特任講師	角家 健 (運動器先端医学分野)
	助教	Mohamad Alaa Terkawi
上級研修医	医員	舘 弘之
	医員	竹内 博紀
	医員	中村 夢志郎
	医員	横田 隼一
	医員	袖山 洋平
	医員	北原 圭太

新入教室員リクルート活動について

今年度より門間先生より引き続く形で北大整形外科の新入教室員のリクルート担当をしています。毎年着実に新入医局員が増えており、年間10人以上の医局員を迎え入れることが実現できていることは、ひとえに同門の諸先生方のご協力の賜物と考えています。誠にありがとうございます。本格的に始動した整形外科新専門医プログラムのもと、多くの医師が当科でのトレーニングを継続しており、指導医・研修医の双方にとって実りある研修が実現するよう、緊張感を持ちながら臨床をおこなっています。今後はさらに当科のプログラムに興味を持つ初期研修医が増えることが予想されますので、皆様のご協力のもと、勧誘とプログラムの充実を図る次第です。

当科では①卒後臨床プログラム、②大学院進学コース、③サブスペシャリティー領域専門医研修プログラムの3つの研修プログラムを用意しています。①は卒後3年目以降を対象とし整形外科専門医を目指します。②は大学院（臨床大学院を含む）での学位取得を、③は専門医取得後に高度診断・治療技術の習得を目標としています。

本年度は、6月21日（金）にホテルマイステイズ札幌アспенにて第1回研修プログラム説明会を開催します。今後は、帯広や函館でも研修プログラム説明会を予定しており、8-9月にも再度、札幌にて研修プログラム説明会を予定しています。昨年同様、同門会の諸先生方のご親族や勤務先などで、上記プログラムに興味をお持ちの医学生、研修医または整形外科医の方がいらっしゃいましたら、下記まで是非ご一報いただけますと幸いです。近年、少しずつ増えてきた女性医師にとっても働きやすい環境も提供していきますので、今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

遠藤 努 TEL：011-706-5936

E-mail: t.endo@med.hokudai.ac.jp

令和元年度 新入局員 自己紹介

(アイウエオ順)

- ① 生年月日
- ② 出身高校
- ③ 出身大学
- ④ 独身あるいは既婚
- ⑤ 特技・趣味
- ⑥ 北大整形外科を志望した理由
- ⑦ 自己PR

専門医プログラム参加 新規入局6名



石井 智佳子

- ① 1985年5月11日
- ② 札幌西高校
- ③ 久留米大学
- ④ 独身

- ⑤ 放浪、睡眠
- ⑥ 整形外科のドクターがかっこいいと思ったからです。
- ⑦ 明るく楽しく頑張りたいと思います。



大上 哲郎

- ① 1982年5月13日
- ② 小倉高校
- ③ 旭川医科大学
- ④ 既婚

- ⑤ 筋トレ、釣り？
- ⑥ 研修にいい環境が多面で整っていると感じたため。
- ⑦ 気合入りがちです。よろしくお願い致します。



小川 裕生

- ① 1991年8月28日
- ② 静岡高校
- ③ 北海道大学
- ④ 独身

- ⑤ テニス、ロードバイク
- ⑥ 臨床、研究共に充実しており、魅力的に感じたためです。
- ⑦ 一生懸命頑張っていきます。ご指導ご鞭撻の程お願い申し上げます。

プログラム参加予定(研修医) 新規入局2名



葛原 凌大

- ① 1991年7月12日
- ② 札幌開成高校
- ③ 旭川医科大学
- ④ 独身

⑤ サッカー

⑥ 臨床、研究どの分野においても高いレベルで学ぶことができると感じたためです。

⑦ 一生懸命頑張りますので、よろしく願い致します。



菅原 悠太郎

- ① 1992年9月17日
- ② 旭川東高校
- ③ 北海道大学
- ④ 独身

⑤ バスケットボール

⑥ 研修病院でお世話になった先生方に憧れて。

⑦ 粘り強く頑張りたいと思います。よろしく願い致します。



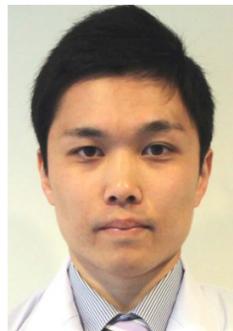
坂井 裕子

- ① 1991年4月21日
- ② 札幌南高校
- ③ 札幌医科大学
- ④ 独身

⑤ 吹奏楽

⑥ 先生方の技術と人柄に惹かれ、こちらで勉強させていただきたいと思いました。

⑦ 一生懸命頑張りますのでご指導ご鞭撻のほどなにとぞよろしく願ひいたします。



福島 瑛

- ① 1993年6月21日
- ② 北嶺高校
- ③ 北海道大学
- ④ 独身

⑤ アイスホッケー、ラグビー

⑥ 整形外科手術の楽しさに魅了され、釧路労災病院の先生方々に大変にお世話になったのが決め手です。

⑦ 未熟者ではありますが、根気強く頑張りますので、ご指導、ご鞭撻のほどよろしく願ひいたします。



山口 哲也

- ① 1988年7月25日
- ② 札幌南高校
- ③ 旭川医科大学
- ④ 独身

⑤ スノーボード、ラグビー

⑥ 初期研修（小樽市立病院）でたくさんの先生方と一緒に手術をしてとても楽しかったからです。

⑦ 体力しか自信はありませんが、精一杯勉強していくので御指導御鞭撻のほどよろしく願ひ致します。

プログラム参加者以外 新規入局5名



大灘 嘉浩

斗南病院に勤務し診療を行っています。

微力ではありますが、地域医療に貢献し努力して参りたいと思います。よろしく願いいたします。



佐藤 達也

この度、さっぽろ病院にて勤務させていただくことになりました。

フロリダ大学に留学後、6年旭川医大で勤務し、専門は股関節のバイオメカになります。

卒後18年ですが、異なる視点からの治療を模索するため、新しい環境でチャレンジすることにしました。ご迷惑おかけしないよう精進いたしますので、何卒よろしく願いいたします。ご指導のほどよろしく願いいたします。



高橋 誠

- ① 1968年1月12日
- ② 開成高校
- ③ 東京医科歯科大学
- ④ 既婚

⑤ 食べ歩き

⑥ 新しいことに挑戦するため。

⑦ 縁あって6月からお世話になります。ご指導ご支援いただけますよう、お願い申し上げます。



土田 芳彦

この度、北海道大学整形外科同門会に入会させていただきました土田芳彦と申します。

私は昭和63年に北大を卒業した64期になりますが、卒業後は主として札幌医大整形外科と救急部にお世話になってまいりました。

専門は外傷とマイクロサージャリーであり、「重度四肢外傷」は私のライフワークです。

平成31年4月より札幌東徳洲会病院に「整形外科外傷センター」を開設させていただいておりますが、北海道大学整形外科同門の諸先生方におかれましては、「切断肢指」「開放骨折」「神経血管損傷」「軟部組織欠損」「感染症」「骨盤寛骨臼骨折」などのお困りの患者さんがおりましたら、お気軽にご相談いただけましたら幸いです。

同門および医局員の諸先生方のお役に立てますよう、鋭意努力していく所存です。何卒よろしく願い申し上げます。



浜口 英寿

1966年5月15日生まれの53歳となります浜口と申します。

むかわ町生まれの滝川高校卒で岩崎教授と安田名誉教授と同郷になります。

旭川医大を卒業し同医大整形外科に入局し、その後膝関節を専門として参りました。

今回縁あり、我汝会さっぽろ病院にお世話になることになり、これを機会に北大整形外科同門会に加えていただけることになりました。今後もTKA・UKAについて情報発信や後進の指導につとめつつ、自身を研鑽して参りたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

令和元年度 教室員 外来・出張スケジュール

	月	火	水	木	金
上肢	岩崎倫 松井 瓜田	手術	河村 太田(光)	岩崎倫 (不定期,予約のみ) 松井 遠藤(健)	河村 瓜田
下肢	近藤 岩崎浩 後藤佳子	手術 小野寺	岩崎浩 松原 松岡	手術	近藤 小野寺 後藤佳子
股関節	高橋 浅野 清水	浅野	高橋(第2以外) 清水	手術	清水(第1週以外) 高橋要
脊柱	高畑 岩田 山田	手術	高畑 岩田 遠藤	手術 須藤(側弯症外来)	須藤 山田 辻本
腫瘍	岩田		松岡・岩田		
リウマチ	清水		清水		清水
骨粗鬆症	清水	浅野	清水		清水
スポーツ				門間(～5月)	門間(～5月), 後藤佳子
リハビリ		遠山			
特殊	小児股関節	内反足	骨・軟部腫瘍 小児股関節	側弯症 先天性疾患	先天性疾患 血友病
ポリクリ			各班分担		各班分担
定期出張		高橋: 倶知安厚生(第1) 小樽市立(第3・5) 北海道内科リウマチ(第4) 清水: 岩見沢市立(第3・5) 製鉄室蘭(第2・4) 高橋要: 記念(第2)	岩崎: 市立旭川[不定期] 近藤: 八木整形外科(第1・2・3) 釧路労災(第4) 高橋大: 市立釧路(第2) 浅野: 帯広厚生(第1・3) 高橋要: 市立旭川(第1・3) 苫小牧市立(第4) 須藤: 倶知安厚生(第1・3・4) 製鉄室蘭(第2) 山田: 我汝会さっぽろ(第1・2・4) 製鉄室蘭(第3) 辻本: 道医療センター(第1・3・4) 天使(第2) 瓜田: 八雲(第1) 帯広厚生(第3) 松井: JCHO札幌北辰(第1・3) 製鉄室蘭(第2・4) 門間(～5月): 八雲(第2・4) 苫小牧市立(第1・3) 遠藤(健): 製鉄室蘭(第1・3) KKR札幌医療(第2・4) 小野寺: 小樽市立(第1) 北海道内科リウマチ(第4) 斗南(第3) 道医療センター(第2) 後藤: 新札幌整形(第1・2・3・4)	河村: 北海道内科リウマチ(第1) 八雲(第3) 苫小牧市立(第2・4) 太田(光): 苫小牧市立(第1) 市立旭川(第3) 斗南(第24) 瓜田: 我汝会さっぽろ(第2・4)	岩崎: 八雲【不定期】 高畑: 北海道内科リウマチ(第1) 市立旭川(第4) 浅野: 斗南(第2・4) 岩田: 函館中央(第2) 斗南(第1・3) 製鉄室蘭(第4) 松原: 小樽市立(第1・3・5) 製鉄室蘭(第2) 函館中央(第4) 遠藤: 製鉄室蘭(第1) 王子(第2・3・4) 岩崎浩: 函館中央(第2) 札幌厚生(第1・3) 愛育(第4) 松岡: がんセンター(第1・3・5) 市立旭川(第2) 製鉄室蘭(第4) 清水: 函館中央(第1)

重要なお知らせ

2019年（平成31年）4月より **医局長が交代** となります

新医局長: 河村 太介 (78期)

メールアドレス: dkawa@pop06.odn.ne.jp

教室名ならびに教室組織図

教室名

北海道大学大学院医学研究院 専門医学系部門 機能再生医学分野 整形外科学教室
Department of Orthopaedic Surgery, Faculty of Medicine and Graduate School of Medicine, Hokkaido University

教室組織図

教授：岩崎 倫政

